

きぼう

[編集・発行]

社会福祉法人全国社会福祉協議会

国際社会福祉基金委員会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

JAPAN NATIONAL COUNCIL OF SOCIAL WELFARE
INTERNATIONAL SOCIAL WELFARE FUND COMMITTEE
4F Shin-kasumigaseki Building, 3-3-2 Kasumigaseki,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980
TEL: 03-3592-1390 FAX: 03-3581-7854
E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp
URL: http://www.shakyo.or.jp/

Vol. 93 | 2024.9.30

もくじ

- P.1 第38期アジア社会福祉従事者研修の実施状況
- P.4 育むプロジェクト 子どもたちからのメッセージ
- P.5 2023年度修了生福祉活動助成事業報告
- P.6 令和6年度第1回国際福祉基金委員会報告
- P.7 韓国社協 金聖二会長が来日
- P.8 国際交流・支援活動会員募集のご案内 ほか

日本語学習を終え、全国の福祉施設へ ～第38期アジア社会福祉従事者研修の実施状況～

3月に来日した第38期研修生の5名は、3か月半にわたり日本語学習に取り組み、この間、研修旅行、施設見学などのプログラムを通して福祉関係者や全社協職員との交流を深め、第1回施設研修を開始する7月には日常会話ができるようになりました。

最後のスピーチテストを終え、日本語の先生とのしばしの別れを惜しんで涙する研修生もいました。



来日した修了生のレアさん（9期フィリピン）親子と交流



こいのぼり掲揚式にて

スピーチテストで発表するファンさん

「台湾ではホームレスの方と一緒に
3日間泊まり込み、ボランティアをしました！
日本の学びを母国につなげたいです」



日本語学習の様子



鎌倉研修旅行

第38期研修生5名の母国での活動を紹介します！

第1回施設研修の報告は次号で紹介します。

3分程度の自己紹介動画のQRコードも載せていますので、ぜひご覧ください！



韓国

チヨイさん



<https://youtu.be/tD0-L9L84V4>

- 「平昌(ピョンチャン)家族センター」では、外国から韓国に来た親子への支援を主として家族に向けたさまざまなプログラムを企画・運営しています。私は韓国語でのコミュニケーション、福祉の資格取得を支援しています。プログラムの運営は大変ですが、やりがいを感じています。情報管理や経理も担当しているので、日本の施設の色々な活動やサービス、施設運営について学びたいと思っています。



第1回施設研修

社会福祉法人大慈厚生事業会
(兵庫県)

母子生活支援施設での研修を中心に、子育て中の家庭に対する支援を学びました。



台湾

ファンさん



<https://youtu.be/fFXzAQDm42U>

- 台湾のサービス付き高齢者向け住宅で働いています。ソーシャルワーカーとして利用者の入居受け入れや、家族の相談支援が主な仕事です。とくに高齢者を介護している家族が介護のために離職したり、介護者の生活がうまくいなくなる現状を改善したいと思っています。日本では高齢者の介護とその家族へのサービスについて学びたいです。



第1回施設研修

社会福祉法人海望福祉会
(富山県)

サービス付き高齢者向け住宅での研修を中心に高齢分野について学びました。



タイ

アイリーンさん



<https://youtu.be/bqLLd1QquBA>

- 保育園を運営する財団でソーシャルワーカーのアシスタントをしています。子どもや親の悩みを聞き、子どもの支援方法を考えています。また性被害に合わないよう子どもたちに教えています。活動する中で、子どもを守るために法律や福祉のシステムをもっと知りたい・勉強したいと思うようになりました。日本では子どもの養育や若者の心のケアを学び、母国の児童福祉に活かしたいです。



第1回施設研修

社会福祉法人至誠学舎立川
(東京都)

児童養護施設での研修を中心に子どもの養育について学びました。



マレーシア

ジョアンさん



https://youtu.be/f_1S-yGU21A

● SPICES（スパイス）という社会福祉センターで障害児の生活支援に携わっています。私が担当している親御さんはいつも子どものことを大切に考えていますが、接し方が分からない時があり、サポートをしています。また、障害がある人もない人も共に楽しく生活できる社会となるよう、日本の研修でそのヒントを得たいと思っています。



第1回施設研修

社会福祉法人肥後自活団（熊本県）

障害児入所施設での研修を中心に障害分野について学びました。



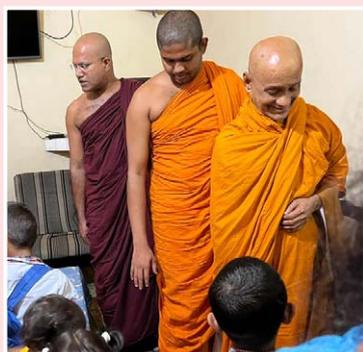
スリランカ

パドウマさん



<https://youtu.be/RzLlqsumTNo>

● お寺でお坊さんをしています。11歳の時に仏教に興味を持ちこの道に進みました。またネセック財団が運営する児童福祉施設の仕事にも取り組んでいます。子どもと一緒に生活し、スタッフの仕事のチェックや子どもたちの勉強のサポートをしています。日本ではスリランカで経験したことのない高齢者福祉・障害者福祉についても学び、母国で支援が必要な方のための施設をつくりたいと思っています。



第1回施設研修

社会福祉法人宝山寺福祉事業団（奈良県）

児童養護施設での研修を中心に児童・高齢分野について学びました。

年間スケジュール

- 3月 …… 来日
- 4月 …… 日本語教室スタート!
- 5月 …… 日本語教室・鎌倉へ研修旅行
- 6月 …… 施設見学

- ①二葉保育園（東京都）
乳児院や保育所での子育て家庭への支援について学びました
- ②重症心身障害児（者）を守る会（東京都）
障害児者に対する支援について学ぶ
- ③六親会（千葉県）
高齢者福祉について学び、日本の社会福祉法人が取り組んでいる分野ごとの福祉にとらわれない支援のあり方についても学びました

日本文化を体験しました!



- 7月～8月 …… 第1回施設研修
- 10月～1月 …… 第2回施設研修

第8回アジア社会福祉セミナー（10/1～10/5開催）に各国の修了生とともに参加します! 詳細は94号で!

- 2月 …… 修了式・2/23 帰国

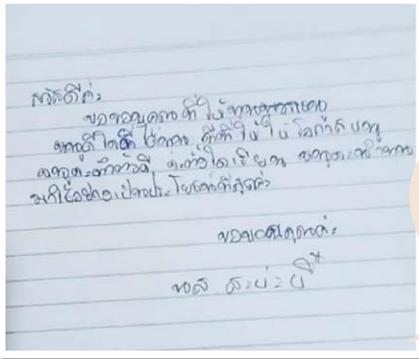


～育むプロジェクト 子どもたちからのメッセージ～

研修を終えた修了生とのつながりを活かし、さまざまな理由から困窮にある子どもたちに経済的、心理的支援を行っています。プロジェクト開始2年目の2024年度は、5カ国34人の子どもに計155万円の支援を行っています。今回はタイとマレーシアからの感謝のメッセージを紹介します！

タイ

少数民族の子どもたちなど、困難な状況にある7人の子どもたちに支援を行った結果、職業訓練や学校教育を受けることができるようになりました！



サバピーさんからのメッセージ日本語訳

こんにちは
私たちに奨学金を支援してくださってありがとうございます。みなさんが私にチャンスをくださったおかげでこの奨学金をもらうことができました。とても嬉しいです。勉強に励み、奨学金を大切につかいます。

家庭訪問



学校でコンピューターを学ぶ



マレーシア

マレーシアでは5人の子どもに支援をしています。子どもたちから手作りのお礼状が届きました！

学校での成績が向上しました。彼は学級委員に選ばれ、学校でのおはなしコンテストで最優秀賞を受賞しました。家では弟や妹の勉強を手伝っています。

「皆様からのご支援で私たちは今まで発揮できていなかった自分の力を出せるようになったように感じます。深く感謝いたします」
ペン



日本との温かいつながりに感謝します



皆さまの力強いご支援のおかげで、子どもの貧困問題に取り組み、子どもたちが安心して成長し、学べる環境づくりをサポートできました。

彼は読み方と英会話が上達しました。自宅で弟に教え、祖母が病院や銀行の書類に記入するのを手伝っています。また、学校のサッカー・チームの選手にも選ばれました。「皆様からの奨学金は、私の経済的負担を軽減しただけでなく、他の人を助け、コミュニティに恩返ししたいという気持ちを持たせてくれました」
ラジ



スポーツをがんばりスクール・ランナーに選ばれました

彼女は教育面で、大きな進歩を見せました。彼女はスポーツにも積極的です。「皆様の親切なご支援がなければ、私にさらなる勉強の機会はなかったでしょう。皆様の支援のおかげで私の目標は本当に大きく変わりました。私はこれを最大限に活用します。自分の将来が楽しみです」
スシルラ



学級助手に選ばれました

今年、彼女は学級助手に選ばれました。学校の課外活動にも積極的に参加しています。コミュニティ学習センターでは職員を助け、年少の子どもたちを指導しています。「私は知識とスキルを向上することができました。皆様からのご支援が私の将来のためであることを認識しながら、この教育の機会を最大限に活用することに全力を尽くします」
クガネス

支援を行っている
子どもたちへの
メッセージを
募集しています

ぜひ、子どもたちに日本の皆様からのメッセージをお寄せください。いただいたメッセージは、修了生を通じて子どもたちにお届けします。平易な日本語のメッセージであれば、修了生が母国語に翻訳して子どもたちに伝えます。イラストや動画でも結構です。以下の連絡先にお寄せください。

全国社会福祉協議会総務部国際福祉協力センター

TEL 03 - 3592 - 1390

mail z-kokusai@shakyo.or.jp

国の社会問題や福祉課題に取り組む修了生の活動

～ 2023 年度修了生福祉活動助成事業報告～

アジア社会福祉従事者研修修了生は、母国に戻り、福祉現場で活躍しています。全社協は、国内福祉団体からの助成・寄付金や国際交流・支援活動会員の皆様からご支援いただいた会費をもとに、各国の福祉課題や社会問題に対して取り組む修了生を応援し、多彩な活動に対して助成を行っています。

2023 年度は 4 か国 7 事業に計 210 万円を助成しましたが、このうち 4 事業を紹介します。

※ 2023 年度事業では、日本社会福祉弘済会、毎日新聞東京社会事業団、全国老人クラブ連合会よりご支援をいただきました。

「ストリート・チルドレンへの教育や心のケア」

ウィルマー（フィリピン 23 期）



事業のポイント

- ストリート・チルドレンが多い地域に出向き、路上教育プログラムを実施
- ニーズを把握した子どもたちへのケアを行うセンターを運営しています
- 保護者に対する子育てスキルの教授、カウンセリングを行っています
- 地域の医療機関等と連携し、地域で見守る体制づくりに取り組んでいます

どんな課題に対する事業？

フィリピンでは、経済的な困窮等を理由に、路上で生活する子どもが多くなります。教育を受ける機会がなく、大人になっても安定した職業に就くことができません。

「知的障害児が災害発生時に命を守る行動をトレーニング」

ラットジャイ（タイ 13 期）



事業のポイント

- さまざまな災害を想定したワークショップを行い、教師や子どもがともに災害時に身を守る方法を学びました
- 水害を想定し、サバイバル・スイミングのトレーニングを実施しました
- 訓練では、子どもたちの恐怖心を取り除き、リラックスしながら学べることを意識していました

どんな課題に対する事業？

私が活動する地域では、さまざまな災害が発生していますが、災害への備えは十分とはいえません。障害がある人への支援はさらに遅れているように感じています。

「学習の遅れに悩む子どもに学ぶことの楽しさを伝える」

ニラーニ（スリランカ 5 期）



事業のポイント

- 授業でわからないことをフォローするクラスを立ち上げました
- 楽しい雰囲気の中でクラスを運営し、学ぶことの楽しさを伝えています
- さまざまな立場の人たちが連携して子どもの成長を支える支援サークルをつくりました
- 家庭訪問を通じた個別ケア等、子ども達の成長をサポートしています

どんな課題に対する事業？

スリランカで、政治的情勢不安や新型コロナの影響によって、学習機会が失われ、学習の遅れに悩む子どもが増えました。感情をコントロールすることができず、友人と良好な関係を築くことができない子どもも多くいました。

「震災の被災者に対する心のケア、社会とのつながりの再構築」

ワワン（インドネシア 19 期）



事業のポイント

- 急性期から次のフェーズに移った被災者の心のケアに重点を置きました
- 参加型の活動を通じ、被災者の社会との関係性の再構築をめざしました
- 地域の関係機関同士の連携等、課題が残っており、継続的に活動していきたいです

どんな課題に対する事業？

2022 年に発生したインドネシア（チアンジュール県）での地震により、多くの犠牲者と被害がありました。被災者のなかには、心理的なトラウマを抱えていたり、社会から孤立している人が多くいます。

報告書(全文)は下記のホームページに掲載しています!
<https://www.shakyo.or.jp/bunya/kokusai/index.html>



これからの国際交流・支援事業をどのように進めるか ～第1回国際社会福祉基金委員会報告～

7月8日に令和6年度第1回国際社会福祉基金委員会を開催しました。本委員会では、全社協の国際交流・支援事業を企画・推進しており、令和6年度は主に以下の事業を進めています。

時代とニーズに即した国際交流・支援事業へ

1984年にスタートした「アジア社会福祉従事者研修」は、今年で40年を迎えました。この間、8か国176名が研修を修了し、日本での学びを母国の福祉活動に活かすことで、アジア各国の社会福祉の発展、充実に寄与してきました。修了生と「顔の見えるネットワーク」を築くことにより、アジア各国の福祉活動の発展や災害時の福祉活動等に直接支援を行うことができます。一方で、アジア各国の社会経済情勢や福祉ニーズは、この40年間で大きく変化しています。それに伴い、各国の福祉関係者が求める国際交流・支援事業も、変化してきました。これからも国際交流・支援事業が時代とニーズに即したものとなるために、本委員会では中長期的な事業展開を検討するための協議を開始しました。

令和6年度主な国際交流・支援事業の予定

アジア長期研修は37期、176名が修了(令和6年度:38期生5名が研修中)

修了生の母国での**福祉活動助成**、各国の福祉の発展に寄与

アジアの子どもに寄り添い、育むプロジェクトでは、貧困等で教育機会を得られない子どもの就学・職業訓練をサポート

スタディツアーでは修了生の母国を訪問、各国の事情を知り、福祉課題等を学ぶ
日韓台3か国会議の開催も予定しており、学びあいの機会とネットワークをつくる

第8回アジア社会福祉セミナーを開催し、修了生と日本の福祉関係者の協力関係を強化！今後の事業について意見交換を行う予定

活動面・資金面ともに「国際交流・支援活動会員」の協力とサポートによって成り立っています

これからの国際交流・支援事業がめざすもの ～検討の方向性～

検討にあたり、これからの国際交流・支援事業がめざすものについて、検討の方向性として5つの柱に整理しました。

「アジア社会福祉従事者研修」を事業の要として考え、これまで脈々と引き継がれてきた各国のソーシャルワーカーの人材育成を目的に日本の福祉・文化の理解促進をはかるという事業の根幹は変わりません。一方、アジア各国の福祉の増進に寄与するとともに、各国間のネットワークを築く人材を育成するために、参加者（研修生）それぞれの

2. 検討の方向性

長期研修開始から40年が経過したいま

国際交流・支援事業がめざすもの

- ① 研修事業をもって、日本と日本文化への理解をはかること
- ② アジア各国の課題・ニーズに即した国際交流・支援事業を展開すること
- ③ アジア各国の社会福祉事情、課題等を的確に把握し、理解、協力すること
- ④ 各国の福祉関係者が学びあい、協力しあえる関係性をつくり、強化すること
- ⑤ 日本の福祉関係者によるアジアとの国際交流・支援事業への理解・協力の輪を拡げること

関心や従事者研修への参加目的にあわせてより効果的な研修のあり方を検討する必要があると考えています。

また、各国の修了生を介した福祉関係者のつながりを強化し、国際交流・支援事業を支えていただいている日本の福祉関係者（法人・施設／個人）の皆さまからのご理解・ご協力の輪を拡げていくことにも重点を置き、検討を進めていきます。

皆様のご意見をお寄せください

今後の検討に向けて、委員会では国際社会福祉基金委員や研修生受入法人・施設等の福祉関係者へのヒアリングをはじめ、第8回アジア社会福祉セミナーでの意見交換会を行うなど、多くの方からご意見をうかがう予定です。国際交流・支援事業に関わるなかでお気づきになった点や、今後の充実を図るために期待すること等、ぜひ皆様からもご意見をお寄せください。

〔国際交流・支援事業に関するご意見など〕

宛先：全国社会福祉協議会 総務部 国際福祉協力センター

- ① メール z-kokusai@shakyo.or.jp
- ② FAX 03-3581-7854

お寄せいただいたご意見は、今後の国際交流・支援事業の検討において参考にさせていただくとともに、国際社会福祉基金委員会での協議で活用させていただきます。

韓国社協 金聖二会長が来日 ～社協の事業内容・運営について意見交換～

4月24日から27日にかけて、韓国社会福祉協議会の金聖二（キムソンヒー）会長が日本を訪れました。

韓国では、日本と同様、市町村、都道府県、全国に相当する区分に社協が設置されていますが、2023年12月に社会福祉事業法が改正され、2025年4月までに市町村社協の設置が義務付けられました。220余りある市町村のうち、社協が未設置であったり、体制の整備を必要とするところが100か所近くに及ぶことから、今回の訪問では、40年前に法制化して以降、市町村社協の事業を拡大してきた日本の状況を視察しました。

4月24日には全社協を訪問し、村木厚子会長と会談。翌25日には、埼玉県社協、川越市社協を、26日には、全社協・中央福祉学院を訪問・視察し、それぞれの事業やその運営等に関して、日韓の福祉関係者による活発な意見交換を行いました。



韓国社協金会長(中央)、アジア研修第38期生、韓国社会福祉協議会の皆様とともに



国際交流・支援活動会員募集のご案内

全国社会福祉協議会では、国際社会福祉基金委員会を設置し、社会福祉分野における国際交流、アジア地域の福祉向上のため、次のような事業に取り組んでいます。



アジア社会福祉従事者研修

毎年、アジアのソーシャルワーカーを招へいし、全国の福祉施設等の皆様のご協力のもと、11 か月間にわたり社会福祉について学びを深める研修を行っています。

修了生福祉活動助成事業

アジア社会福祉従事者研修を終えた修了生が母国で取り組む福祉活動を支援しています。DV や虐待の被害を受けている女性や子どもへの支援、保健衛生の向上、農作業や小規模な事業による所得創出など、多様なニーズに向き合った事業が実施されています。

ネットワークづくり

研修修了生の母国を訪ね、情報交換を行うスタディツアーや、5年に一度、修了生が一堂に会し、日本の福祉関係者との相互交流を図るセミナーを実施しています。

災害時福祉支援

近年、アジア地域では大規模な災害が多く発生しています。災害が発生した際は、研修修了生とのネットワークを活用し、現地での被災者支援活動を支援しています。

子どもたちの支援

研修修了生と連携し、家庭の貧困等、さまざまな理由によって教育や就労の機会を得られない子どもたちに、経済的支援とともに、交流を通じた心の支援を行っています。

全社協では、国際交流・支援活動会員のご登録を随時受け付けています。国際交流・支援活動会員へのお申し込みをされる方は、左記 URL より登録手続きをお願いいたします。追って、パンフレット等のご案内をお送りします。

<https://forms.gle/znx195SYVPVN9Wr9A>



会員区分・会費（令和6年度・年間）

- ア) 法人・組織会員（1口5万円）：国際交流・支援活動（育むプロジェクトを含む）にご参加・ご支援いただける法人の方
- イ) 個人会員（1口5千円）：国際交流・支援活動（育むプロジェクトを含む）にご参加・ご支援いただける個人の方
- ウ) 賛助会員（1口5万円）：主に経済的に活動を支援いただける法人・組織の方
- エ) 育むプロジェクト支援会員（1口5千円）：育むプロジェクトにご参加・ご支援いただける法人・組織、個人の方